
百合・・・なにそれおいしいの？

祭禅雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

百合・・・なにそれおいしいの？

【Nコード】

N7777L

【作者名】

祭禅雪

【あらすじ】

修学旅行の帰りのバス。

友達と3人で「死ねばいいのに」を皆に向けて熱唱をしていたとき、バスのブレーキが利かずに曲がりきれず、がけから転落した。

その後目が覚めたら急に変な人物に話しかけられた主人公はカオスな会話へ持っていく・・・。

結局ひぐらしの惨劇を止めるために転生をする主人公。

主人公は百合ハーED目指して頑張ります！

そして・・・主人公は馬鹿です。

主人公の寂しさが分っちゃうっていう・・・（え（前書き）

カオス会話でもいいという人のみ読んでください。

主人公の寂しさが分っちゃうっていう・・・（え

死ねばいいのに！って歌ったら本当に死にました・・・。

はぁ！？ってなった人挙手！。

はい！その貴方！

よくぞ言い出してくれました！

回想を見てください！

納得しますから！

つかしろ！！（え

回想というなの説明。

「やあやあやあ。元気かい？君達！元気なら転生しよう！そうしよう！」

「・・・誰このオッサン・・・」

「わぁ、ひつどいなあ！オジチャンまだ死んでから1000年しかたっていないよお？」

「自分でオジチャン言ってるんだろ！？つか、死んでからって何だよ！」

「だって、ここ死後の世界だから☆」

「んー・・・あ、もしもし？あのですね、今ちょっと頭の可笑しいおじさんに絡まれて・・・え？いたずらって。違いますって！本当に目の前にいるんですってばぁあ！って・・・切れた。カオス」

「いや、誰も出てないのに、一人でやってる君がカオスだからっ」

「何故それを！？」

「だってオジチャン神様だから☆」

「あっそう。で？何？俺は死んだわけ？」

「自分が死んだこと分ってるし……。普通に落下したよな……」

「んー……。仕方ないんじゃないかな？ オジチャンがブレーキ利かないようにしたからね☆」

「テメエカアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

.....!

L

「ブレーキが利かないって言ってたけど、お前の仕業かよ！ふざけんじゃねえよ！俺アニメ録画してたんだぞ！けいおんとか会長はメイド様とかDRRRとか！後、百合ゲーム頼んだばかりかだぞ！ふざけんな！Wiiも買って零の実況動画を友達と百合っぽい感じでやろうと思ってたのに！友達には許可とってねえけど！」

「・・・いつやあ、君を選んで正解だったなあ！！」

「ねえ、何で目そらすの？何で？そんなんで正解って言われても・・・ああ！もうすみませんね！ヲタクですけど、真面目に生きてましたよ！何で死ななきゃいけなかったんですか！」

「それは、雛見沢の惨劇を防いで欲しいのだよ」

「アニメでは祭囃子編で解決したろーが！」

「全ての世界を救って欲しいんだよ」

「時系列どうすんだよ!!!!!!!!!!!!」

「そこはなんとかするさ」

「で？俺がいつてメリツトは？」

「百合ハーレムED目指してもいいぞ……？」

「なん・・・だと。あのメンバー攻略していいのか!? 公式のCP崩してもいいのか!？」

「まあ、君だけの世界だからな」

「マジか！声優さんが喋ってるキャラと会話できて会えちゃうのかよ！なにその特典！行くいくいく！」

「・・・アニメ通り失敗したら同じ世界を繰り返すぞ。それを梨花

が怪しむからな。転生したててことを気づかれては駄目だぞ」

「梨花にも言っちゃ駄目なのか？」

「期待させるな。・・・全部といったが皆殺し編からだからな」

「てめっ！ふざけんなよ！」

「ちなみに救えるのは祭囃子編でだけだからな。介入するかは自由だ」

「・・・まあ行くけどね」

「え？」

「だってさ、あの萌えキャラにあるんだぞ！？まあ、圭一邪魔だけど。でも、いいや。圭一会ってこそそのひぐらしだし」

「てっきり反対するかと思ったが・・・」

「アニヲタが転生できるの反対するわけねえじゃん」

「じゃ、じゃあ。転校生って事で皆殺し編の最初に転生させるからな・・・」

「おうよ！」

「よし。頑張って来い」

「あ・・・ちょっと待て！ステータス教えてくれよ！」

「飛んでから記憶に入る！」

回想というなの説明終了。

よんでくださいました！？

いっやあひぐらしですよ！

グロイの駄目なんですけどね・・・。

皆殺し編は他のにくらべればへーきですし！

というか、あの感動物語に介入できちゃうなんて！幸せですよ！

これ以上ない幸せですよ！

会話文なのは、考えずに喋ってるからですさ！

じゃあ、この俺、刹那が主人公の「ひぐらしのなく頃に」転生物語「百合・・・なにそれおいしいの？」をヨロシクオネガイシマス！

応援してね！

俺じゃなくて梨花を！

・・・。

いや、さすがにさ、自分でこれ考えてて寂しい奴だなんて思えてきた・・・。

友達居なかったんだな・・・俺。

誰もついてきてないじゃん・・・。

しかも、転生できたのって俺だけなのか、死んだのは俺だけなのかどっちなんだろ・・・。

後者の方がいいな・・・。

あいつらが死んだなんて考えねえから・・・な。

主人公の寂しさが分っちゃうっていう・・・（え（後書き）

文才なくてすみません！

目疲れましたよね！？

でも、次回はちゃんと考えますから！

諦めないで下さい！

見捨てないで！！

神様って言い間違いあるんだ・・・今気づいた（オソッ（前書き）

あ、あの！

お気に入り登録してくださり、ありがとうございます！

PC禁止が続いている中、無視して投稿・・・隠れてやってるんでバレたらおしまいですが！

こんな駄文呼んでくれる方のために自分は頑張ります！

これからもよろしくです！

神様って言い間違いあるんだ・・・今気づいた(オソッ

皆さん。

今気づいたんですけど、あの場に俺以外いませんでしたよね？
なのに「君達」ってあほ？

あ・・・やべえ俺馬鹿だった・・・orz
だああああ！

なんだよ！馬鹿で悪かったなああああ！

・・・キャラ作ろうかな・・・。

ほら・・・俺とか言う女子少ないと思うんだけど・・・。

・・・いや、駄目だな！圭一に奪われる！

ハーレムメンバー奪われる。

それだけは嫌だああああ！

てことで、今どこかといいますと。

雛見沢です！これって雛魅沢ってかかれてたときあった事ないですか？

まあ、いいやw

で、ですね、何故か・・・。家立ってるんですよ？

僕の家・・・あ、字建つだった・・・。

俺中2なのに・・・orzくそ！

気にせずいくぜ！

「考えるのやめて喋っても独り言じゃねえか！・・・と、学校行くか・・・。先生の名前・・・シラネ(え)」

俺自信イレギュラーな存在なのに・・・って字！

作者！テメエ。お前の性格若干取ってんだから！

漢字ぐらいちゃんとして！お前そこまで馬鹿じゃないだろ！？

作（いあ、そっちのがおもしろいから↑）

おいしいおいしい！

ってそんなこんなで学校着いちゃったw

テヘっ・・・サーセン。

学校・・・俺行きたくないっすわぁw

マジ、無理・・・ですw

あの、時間早くない？って思った方、小説だから出来ることで・・・
1時間歩きましたよ？

遠すぎませんか・・・？

「中野さん？」

「あ！すみません、ちょっと緊張してて・・・」

「大丈夫ですよ。じゃ、先どうぞ」

ん・・・？待て！これは高齢のトラップじゃないか・・・ああ、も

うつっこまないよ・・・。

作者・・・普通に戻して。

作（今のは面倒だったからだし・・・もう真面目人間で通すから。

敬語使ってな！）

めんど・・・おい！

テメェ！

って今はそれどころじゃない！

トラップをどうするか・・・だな。

避けていいよな！

痛いだろうから！

圭一の転校初日のあれはまじ実際に受けるとなると痛いけど・・・。
沙都子の高感度あげる！

「はい。じゃ、失礼します・・・ってうわっ！」

ちよ・・・圭一と一緒にのトラップって・・・いてえよ!!!!!!

「???女の子だよ？」

「・・・ってえ。初日でコレかよ・・・」

「どこからどう見たって男だろ、こいつ」

「圭一君、それは失礼じゃないかな? かな? この子女の子だよ?」

「レナ、何で分るんだ?」

「だって・・・」

や、やべえ!

レナさんのあれか?

最強モード発動?

「かぁいいよおおお！」

「だぁぁぁぁ! な、何ですか? ちよ、待てい! あぁぁぁぁ! もう、キヤラ作るとか無理だ! つっこむしかねえじゃねえかよ! くそ! あの野郎!!!!!!!!!!!!」

「へ・・・? ちよ、中野さん、どうしたんですか?」

「え・・・。あ、すみません、ちよっと、誰かさんに文句言っただけです・・・」

「気を取り直して自己紹介してくださいね」

「あー・・・はい。名前は中野刹那です。こーみえても一応女子です。えーと、俺とか言ってますけど、性同一とかじゃないんでそこらへんは大丈夫です。こうなったのも前の学校の友達のおかげなので・・・。えーと、分らない事だらけで、失敗ばかりすると思います。これから仲良くしてください!」

「・・・自己紹介終わったから・・・お持ちかえりい!」

「そこ！無意味な行動しない！・・・女の子ならおじさんが色々聞
いちゃうよ？いいのかなあ？」

「さしつかえなければいいですよ？」

「じゃあ、今日のしも・・・ぐへっ」

「全く・・・そういう質問は控えたらどうです？魅音さん」

「そ、そういう沙都子だってトラップしかけてたじゃん」

「うっ・・・それは！転校生が早く馴染めるようにしただけですわ
！」

「みい・・・嘘はだめなのですよ、沙都子」

「り、梨花まで何をおっしゃいますの！？」

「ははは。いいよ、俺は。気にしてないし、年下のしたことだし・・・
でも、トラップ仕掛けれるなんてすごいな」

一度やってみたかった。

笑顔で沙都子の頭撫でるのを！

高感度とか関係なく、この時の沙都子のツンデレが可愛すぎて、も
う。

レナの気持ちも分る気がする・・・。

・・・なんでこの子達が死ななきゃいけなかったんだろう・・・。
ん？梨花の後ろに羽入はいない・・・か。

ま、まだ接触は駄目だろうな・・・。

皆殺し編の最後だし。

「い、いつまで撫でてるんですの！？」

「あ、ごめんね。可愛いから、ついずっと撫でちゃってたよ・・・
ってそういうば名前聞いてなかったよね？」

「中野って言ったっけ？沙都子は俺のものだから手出してもらっちゃ
困るんだけど？」

「圭一君、何いってるのかな？かな？沙都子ちゃんは私のものに決
まってるでよね？よね？」

「みいー……。また喧嘩するですか？」

「あはは。おじさんこればっかは止められないな」

「さて、二人とも、外にでようか？ 決着付けようぜ？」

「圭一君、そんなこと言ってまた勝つのは私だけではないのかな？ かな？」

「……。俺もはいつてんのね……。まあ、いいけどさ、なにするわけ？」

キャラ壊れてる……。

あつるれえ？

イレギュラーの俺がいるからか……？

まあ、いいや、きにしねえw

レナも沙都子も俺が貰うかな……。はっはっは……。うん、頑張ろう。

「外に俺は出たくないんだけど、滅茶苦茶雨降ってるから……。俺、自己紹介したら帰るつもりだったんですけど、つか、名前キイテナイですってば」

「ああ！？俺は、前原圭一。よろしくなw」

「私は竜宮レナだからレナって呼んでね」

「おじさんは、園崎魅音。好きに呼んでもらってかまわないよ」

「私は北条沙都子ですわ。……。まあ、仲良くしてあげてもいいですわよ？」

「僕は古手梨花です。仲良くしてくださいなのです」

「じゃあ、皆呼び捨てでもいいですか？俺のが年下ですけど、あと口調とか普通でいいですか？そっちのが楽なんで」

「好きにしていいいぞwだが！沙都子はわたさねえ！」

「私がいつあなた達のものになったんですの？」

「なってないってことは、貰ってもいい……。ですよねwじゃあ、レナに圭一、沙都子貰うわ」

「ちょ、あなたもはいつてますのよ!？」

冗談はこのくらいにして W W W W W W W W
うけるわー！ー！ー！ー！ W

キャラ崩壊タノシス W

ナニコレ W

まじうける W W

腹筋崩壊 W W

と・・・というか W

俺の家。何故か、神社の近くなのに来るのに1時間・・・ああ、道間違えたか↑

「じゃあ、俺はこれで」

「待て！勝負からにげるのか！ああ？」

「だから、年下に、しかも異性になに喧嘩売ってんですか？圭一・
・喧嘩売る相手考えたら？俺、殴るのだけは強いから」

「・・・す、すみませんでした！」

「え？な、何で謝るんですか・・・？え・・・ええ!？」

「あの子って鈍感ですわよね」

「みいゝ。天然さんなのですう」

「そこが可愛い・・・あー、お持ち帰りしたい！」

「あははは！しばらくあの子は皆の共通のものでいこうじゃないか
っ。おじさん、頑張ろうかな」

「まあ、そういうことですわね」

・・・女性陣が影でなにやら話してるけど、まあいいか W
結構高感度上がったんじゃない？

まあ、ないだろうけどさ W

つか、もう。眠いから、帰るか・・・。

梨花たち誘おう！誘おう！

「な、なあ、梨花に沙都子。一緒に帰ってくれないかな、俺、来る
とき何故か1時間かかってんだよ。俺の家は神社の滅茶苦茶近くだ
ったから」

「なんで刹那は梨花ちゃんが神社に住んでるってしてんだ？」

「だって、古手神社って書いてったし……。んで、オヤシロ様の
生まれ変わりって言われてんでしょ？」

「みいゝ。僕は全然いいですよ」

「わ、私も気にしませんことよ」

「ははwじゃ、よろしくねw」

神様って言い間違いあるんだ・・・今気づいた（オソツ（後書き）

はい。

何故か自分とうじょうしてます。

主人公・・・分らないww

というか、皆さん！

全然考えれてないですね！

ながいですよね！？

すみません！

で、ですね。

次回は、あの人登場ですw

帰り道ゝ圭一君に言い放ったことを主人公にも言っちゃいますよw

・・・見捨てないでくださいね・・・？

お願いしますよ！！

そんなこと俺には関係ない！（前書き）

・・・。

主人公が馬鹿すぎますよね W W

高感度と好感度間違えてる W W

って・・・実は作者が間違えてたのをそのままにしてたり（え
ま、まあ、馬鹿設定ですし・・・いいですよ？

そんなこと俺には関係ない！

神社の近くに何で家建ってたんだろ・・・。

イレギュラーな俺が来て世界が変わったとか・・・？

だったら、これもしかしたら皆殺し編じやないかもしれねえって事か・・・。。。

もし、そうだとしたら、誰が狂うんだ？

それも俺が止めなきゃ・・・いや、止めるんだよな。絶対に、なw

「みいゝ？刹那どうしたのです？」

「え・・・？ああ、ごめん考え事してたwwんで、何？」

「あら？貴方が引越してきた中野刹那さんかしら？」

「・・・そうですけど」

「ふふ。そんな怪しまないでいいわよ。私は鷹野三四、入江さんの
とこで働いてるわ」

「で、その鷹野さんがなんのようで？」

「いえ、ただ今年は誰が消えて誰が死ぬんでしょうね？ww」

「どういうことですか？」

「あら、何も知らないの？皆教えてないのねw」

知ってますよ？

圭一に言ったこと言ってくるんだろ！？

ふっ。

すまないが好感度上げるために利用させてもらうぜっ
つか・・・漢字今日からは間違いませんよ！？

そこ！文句言わない！！

「確か・・・まだ見つかってないんだってね。片腕」

「貴方は？」

「ああ、僕は富竹次郎だよ。カメラマンをしていてね、この時期に毎年ここへ来るんだw」

「カメラですか！？僕も好きなんです！今度色々教えて下さい！」

「ははは。いいよwじゃあ、景色でも撮ろうかw」

「はい、ぜひ！って。片腕って？」

「ああ、それは・・・」

説明省くわ・・・。

言われたことに俺は思ったこと答えるだけ。

ずっと言いたくて仕方なかったんだよな。

はっはっは・・・。

真面目に行くぞ。

「それがどうしたんですか？知ってますよ？この村で毎年一人が消えて一人が死んでるって・・・。去年は確か・・・北条の叔母さんが死んで、この子の兄が消えたんでしょ？んで、その前は梨花の母と父。そして、工場の監督がバラバラ殺人で発見されて、その片腕が見つかってない・・・ってことだろ？それがどうしたっていうんだよ？この村は俺大好きだから。夜になると星が見えて、んで、この子達はすごい仲間思いで・・・。俺が・・・ここに来る前の仲間達にそっくりで、救いたいんだよ。雛見沢症候群から、皆を守るために俺は来たんだよ？まあ、せいぜい研究頑張って下さいね？鷹野美代子さん？」

「何故貴方がそれを！？」

「え・・・？俺今なんか言っていました・・・？」

「・・・いえ、なんでもないわ」

「そうですかwじゃあ行くぞw沙都子、梨花」

「ちよっと待ってくださいよ刹那さん！」

「みいゝ。刹那待つのです」

言いたかったこと言っちゃったけど・・・。

あはっ☆

怒られそうだwwwwww

でも、関係ないねw

キャラ崩壊してんだから、世界も崩壊してるだろ。。。

そ、そう信じとこう・・・。

で・・・あの後梨花から夜呼び出されて神社の階段に座って話します。

・・・さて、本当の事言おうかな・・・。

敵意むき出しだし、な。

これじゃハーレムED迎えられネェし。

神様なんて知らないね。運命は自分で変える物だしw

「で、梨花。俺が何で知ってるか聞きたいんだろ？」

「ええ。何故貴方があんなことまで知ってるのか、そして何故ここに居るのかもね」

「俺は死んでるんだよ。それも2回。最初は友達と誘拐されて、んで、転生したんだ。平和だと思ってた。だけど、修学旅行の帰りバスが事故を起こして俺は死んだ。で、ここに來たって訳。それで、知ってる理由は、俺がこの世界を前の前の世界で見たからだ」

「それはどういうことかしら？」

「アニメとか漫画ってあるだろ？それでこの世界描かれてたんだよ」

「そう・・・。じゃあ、単刀直入に聞くわね、黒幕は誰？」

「そうくるか・・・。黒幕は・・・あれ？思い出せない・・・。梨花に話す前までは分ってたのに・・・なんでだ・・・。話しちまつたからか・・・？つか、前の世界もどんどころか思い出せない・・・。

・」

「どうということ？」

「わからない。でも、多分だけど、この世界を俺が知りすぎている、だから消されたんだ。喋るなって言われてた忠告を俺が破ったからな……」

「……何故話したの？」

「決まってるだろ？ 皆を救いたいんだよ。もちろん、羽人もなw」

「知ってるのね……羽入の事」

「ああ、辛いものが駄目で甘いのが大好きってこととかw梨花とは縁が深いこととかもな」

「そう……じゃあ、最後に私達は救われるの？」

「シラネエ」

「え？」

「でも、大丈夫！ 俺が皆を救ってみせる！ この永遠と続く幕開けを俺が、新しい舞台へ変えてみせる！ それで問題ないだろ！？」

「え。。。ええ」

「じゃあ梨花。沙都子起きて来たみたいだし、俺帰るな。明日またここに集合って事で。ま、夜もここに来るから……相談なら何でも乗るし。今までの世界の事を聞きたいから」

「分ったのです。じゃあ、また明日なのですよ刹那」

「沙都子も梨花もおやすみなw」

「……何の話か知りませんが、早く寝たほうがよろしくてよ、梨花」

「それじゃあ僕と沙都子は帰るのです」

「ん、じゃあ、な」

記憶が消えた……。

どうということだ……。

しかも、一瞬聴こえたあの声は、もしかして菜摘か？

わかんねえ！

くそ！

菜摘って誰だ！？

なんで、なんで思い出せねえんだよ！

馬鹿すぎるだろ俺！？

・・・明日から山狗が動くだろうな。

知らない振りを通すしかないな。

俺が、皆を救うんだ！

ぜってえ、救うんだ・・・って救える？

俺が。。。？

この馬鹿が？

って思った奴前にでてこい！

ああ！？

喧嘩売ってんだろ？

でてこ・・・ぐはっ。

作（読者様に向かってなんて口の利き方だ君！やめないか！）

て、てめえ。

自分のキャラより読者優先かよ！？

俺あつての読者だろ！？

作（違う！読者様あつての僕達だ！）

・・・棒小説のラジオのノリはやめようと、誓った俺だった・・・。

そんなこと俺には関係ない！
（後書き）

すみません！

やってしまった・・・。

神様。
。
。
。
ごめんね

つい、主人公が馬鹿だから・・・

え？ なんて？

僕も馬鹿だって???

やだなあ
W

そんなこと分ってますよ W

ですから！

ホント見捨てないで下さい！

駄文すぎますけど！

k
s
ですけど！

それでも、頑張ってるんです！

こんな駄文にでも感想くれると作者はやる気を出します！

みなさんの感想をお待ちしていますから！

ですから物を投げないで下さい！！！！！！！！

いや・・・俺転校してきたばっかなのに？

「今日は転校生を紹介します」

先生の一言が始まるこの小説・・・。

驚きすぎて、馬鹿やってらんないです。

俺が転校してきたの昨日ですよ？

その次の日にまた転校生？

そりゃ皆驚くよ・・・。

あ・・・あれ？

沙都子が悔しがってる・・・。

ああ、トラップしかけたかったのか・・・っておい！

どんだけ転校生にトラップしかけたいのさ！

知ってるけど。知ってるけど、さすがに生で見ると・・・感心する

わーww

「崎原菜摘です。そこにいる中野刹那の前の学校の友達です。親同士が仲良いので何故か自分が、世話してやってくれて頼まれました」

・・・。

分ります、皆さん。

その気持ち。

昨日転校してきた人の関係者が次の日転校してきたら注目されますよね？

そして菜摘・・・死んだのかよ！

おおいに突っ込みたいね！！！！

なにやってんだよ！

確かに菜摘も歌ってたけどw

え・・・もしかして、はるか様も死んでる・・・？
いやいやいや、さすがにないよな・・・って。
すみません、視線が痛いです、皆さん。

分りましたよ！たちますよ！

「・・・。菜摘・・・死んでください！オネガイシマス！」

「・・・嫌だ。つかお前のせいで何回しにかけたと思ってんだよ？
ああ！？」

「わーわー。怖いから！つか、お前のせいもあつたろ！？不良との喧嘩にお前は部活の試合出れないといけないからって俺が変わりに喧嘩して！あいてバットだぞ？頭強打されたぞ！？」

「はあ！？刹那だって人の事言えないだろ！？誘拐された近所の子助けるんだ、とか言って犯人の家乗り込んでいきやがってよ！俺、撃たれたんだぞ！？」

「あああああ！？俺をかばってくれたのは嬉しいけどその後俺が菜摘庇って意識不明になったのは俺なんだよ！」

「じゃあ何だ！？学校に不審者乱入のときはるかかばって怪我したのはいいのに、俺は駄目なのか？」

「違うし・・・。菜摘に怪我してほしくなかったんだよ・・・。っ・・・仲間だし・・・好きだから・・・。ってああああもう！仲間が俺庇って死にかけるのが嫌なんだよ！」

「俺だってそうだよ！だから庇ってんだよ！」

あああああ！

なに？これ・・・。

告白タイム？

ちょっと待ってくださいよ！

皆勘違いしないで！

レナ！なに菜摘をそんな怖い目で見てるの！

全く・・・え？

皆・・・今度は僕を睨んでませんか？

え・・・？菜摘初日から人気？

まじでか！？

うっわぁw

すごw

「・・・すみませんでした！調子のりましたぁぁぁ！」

「いや、俺の方こそごめん刹那wwちよっと楽しすぎてw」

「いや、菜摘。マジで久しぶり！あの時以来か？つっても一昨日ぶりか？」

「そうだよww何言ってるんだよw刹那wつか・・・周りの目が怖い」

「えーと、皆さんすみません、いつものことです。あ、あのねレナ。僕の親友をそんな睨まないで？」

「え？なんのことかな？かな？」

「睨んでるだろ、レナw」

「圭一君？私はにらんでないよ？そうだよね皆？」

『は、はい！』

だから、レナこええええって叫びたいからw

怖いから・・・w

・・・菜摘、まさか、君。

狂わないよね？

でも圭一も狂ったんだよな・・・？

転校してきたばかりで・・・。

鷹野さんが菜摘に同じ話をしたら、どう答えるだろう・・・。

っていうか・・・菜摘ひぐらしシラネエエエ！

偏見は持たない子だけど・・・グライアニメって思ってる・・・ってグライってなにグロイだよおおお！！！！！！！！

作者シネエエエエ！（お前が死になさい？

ん？今とても凄い殺気が・・・。
ま、まあ！

気にしないさ！

さて、授業うけようかなあ W

・・・。

考えまとめないとな。

菜摘の答え方によって・・・狂うかのうせいも否定はできない・・・。

あのね？人が真面目に考えてるときにさ！

馬鹿設定発動させないで！

ひらがなってなに？

わざと？

文字ミス多いよ！？

作（大丈夫、わざとだから W）

ふざけんなあああああああ！

女子の嫉妬は怖いってよくいうけど、それは実によく分る。(前書き)

・・・申し訳ありません!.....!!

PC禁止されていました!

今もですけど!

なんとか一話あげれます!

ホントすみません!

女子の嫉妬は怖いってよくいうけど、それは実によく分る。

俺が一番怖いもの。

それは、女子の嫉妬です。

・・・前の学校ではですね・・・。

菜摘は女子にモテモテなんですよ。

周りに女子いて近づけない。

んでもって俺が休日菜摘と二人で出かけてたんですよ。

デートじゃないのに。殺気が凄かった。

出掛けてた場所は、朝ボーリング行ってその後ご飯食べて（朝ごはん）それで何処行くか話しながら歩いてて・・・そこに菜摘のファンクラブの会長さんがお友達居て。

お友達さんも会員っていう・・・ね。

会長さんが菜摘に話しかけてお友達さんが菜摘の周り囲んで俺と距離はなしたんですよ。

んで、その中の一人が（全員で7人）俺になんていったと思いますか？

「貴方が菜摘さんのそばにいる資格なんてないですよ。いつもいつもそばに居て。どういうつもりなんですか？菜摘さんの優しさに頼らないで下さいよ。貴方が転校前何をしてたかなんて知ってますから。目障りです。あなたみたいな人必要ないんですよ」

殺気出しながら言われて怖がらないとでも？

俺、何も言えなかった。

必要とされないことも、いらないことも分ってた。

確かに俺は菜摘たちの優しさにすがっていた。

その何が悪い。

俺は数少ない友達と一緒に居たいだけなんだ。

その何が悪い？

次の日学校行ったらイジメ始まった。

でも、でも。

それでも、菜摘はそばに居てくれて、皆を説得してくれて。。。それから俺達は本当の親友になれたんだ。

作（お前が真面目な話すると殴りたくなる）

・・・え。

え、殴るて。

酷いなっ！

って、そんな場合じゃない！

この状況が理解できない。

作者、急展開すぎるよ。

罪滅ぼし編って・・・いきなり！？

俺の知らない間に多分圭一たちが話してたんだと思う。

俺、最低だ。

気づけなかった。

ここ数日レナがやけに笑顔だから。

無理してるって気づけなかった。

圭一は資料を警察の人に渡しにいった。

認めたくないけど、レナが圭一を信じるのはムカツク。

認めるしかないね。

ハーレムEDとかいっときながら、俺、

レナの事好きだ。

だから、圭一に嫉妬する。

でも、嫌いになれない。

どうしたらいいか分らない。

・・・俺がレナ好きになったのって今思えばあのときだよな・・・。
まあ、いいんだけどさ。

レナが圭一好きで・・・。

いいんだけど、でも。

俺は、心から喜んであげれない。

菜摘・・・どうしたらいい？

「そんな目で訴えられても困る。つか、なんでさっさと言わなかったんだよ」

「だって、認めたくなかったんだよっ！」

「アホだろ。」

「アホだよ」

（小声で話中）

「何話してるのかな？ かな？」

「レナ、これ取って」

「いくら刹那ちゃんでも駄目、かな、かな」

「そかぁ」

「うん」

よし。

何でこんなことになったかは、次回へっ！
っておいしいいいい！

本編で代弁させんじゃねええええ！

女子の嫉妬は怖いってよくいうけど、それは実によく分る。(後書き)

長くなるので、

刹那(馬鹿)がレナを好きになったときの回想は次回へ。

急展開になってるようでごめんなさい。

使用です。自分なりの。

次回はすぐ投稿したいな・・・。

認めたくない・・・俺は認めたくない!!!! (前書き)

P C 解禁だあああ! とはしゃぐ自分。
さあて、

刹那が自覚したお話。
にならないかも・・・ (え

認めたくない・・・俺は認めたくないいい!!!!

菜摘のすごさは知っています。

ねえ・・・転校して次の日になにこれ。

え？遊びに行くって・・・？

え？

俺、ついで扱いで誘われたーw

かあるうくうショックだね♪（）

ただ単に案内だけどねw

雛見沢のね。

色々案内だってさ・・・。

ちなみにね、俺と菜摘は一緒に住んだりして、それ言ったときの女子の目線が刺さる刺さる。

くはっ。

モテモテデスネ、ナツミサマ。

「さっきから黙ってなに考えてんだ刹那」

「あ？んー別にい」

「ふうん。つかよ、あいつらって仲良くなるの早いな・・・」

「だねー。俺と圭一話参加してないのに盛り上がってるし・・・というかおいてかれてる。気づいてくれないんだー・・・。ショックだなあ」

「ははっ。まあ、俺等だし・・・な」

「ですねー」

「ん？そういえば刹那は菜摘とどういう関係？」

「小さい頃からずーっと一緒に遊んでた」

「たとえば？」

「えーと、キャッチボール。鬼ごっこ。野球」

「・・・男子」

「言うな、分っているw」

なんか一番圭一と喋るのが楽しいなっ。
圭一馬鹿やってて俺と一緒にだし。

作（お前と同じにされた圭一に同情する）

ひでえええええ。

作者ひでえええ。

なにそr・・・ってどうでもいいや。
突っ込むのメンドクサイ。

作（OK。もっと馬鹿キャラにしてやろう）

すみませんでした。

と・・・。

菜摘たち店入ってた・・・。
んー？

ああ、詩音フラグですね。

多分もう圭一はあってるっけ？

つか魅音って弁当を詩音のふりして渡すとか思い出すと可愛すぎる
っwwww

「と・・・あいつら俺等の事真面目に忘れてるぞ、刹那」

「俺帰るわ」

「え？せっかくこっちまできたのに？」

「んー。俺、雛見沢の方が好きだから」

「変わってるな」

「よく言われるw」

「とりあえずあいつ等に言ってからにしろよW」
「ん、分ってるって」

面倒って言ったら殺されるね。
ん？誰に？

菜摘以外だれがいるんだW

「ちょっ、圭一待て」

「あ。ごめん忘れても」

「ひでええ」

「ごめんってww」

「ま、いーけどさ」

「あ、圭一君こっちこっちー」

「お、レナ」

「俺の名前はないの・・・ね」

「ん？何か言ったか？」

「ナンデモナイデス。」

「刹那お前、遅い」

「すみませぬね、菜摘さん。つか、俺帰る」

「え？何で？」

「帰るっていうより用事思い出したから」

「用事ってなにかな？かな？」

「ん？別に言わなくてもいーじゃん」

「刹那、言い方」

「知らないね、俺は性格曲がってるから」

「あのさ、いちいちつかかんのやめろよ」

「は？何でお前なんかにつつかかんなきゃいけないわけ？」

「あっそ、勝手に言っとけば？」

「ハイハイ、何様のつもりなんだろうね、こいつ」

「ちょ、おじさん対処できないから喧嘩やめてほしいなー。なんて・・・」

「ああ、ごめん。じゃ、圭一俺帰るわ」

「ん？分った、じゃあまた学校でな」

「おう」

ああああ。

だまちゃったよ。

ねえ・・・。

だってむかついたんだもん。

やっぱ俺ってヤンデレか・・・デレのない・・・ってそれはやばいかww

別にさ、俺はいいんだよね。友達取られても、ね。

でもさ、なんかさ、機嫌悪い。

いつもより。

なーちゃんのとき以来だ。こんなの。

自分にむかつく。

なんで、こう性格悪いかね。

「刹那ちゃん・・・つまんない？」

「え・・・？」

「レナたちと遊ぶのつまんないのかな・・・かな？」

遠慮がちに聴くレナ。

うん、そんなことない。

でも、俺はんなこといわねえ。

「詰まる。けど、用事あるんだ」

「日本語しゃべりませんか？刹那さん」

「いや、ソレが俺のクオリティ」

ん？これ意味どうなんだろうw

まあ、いいやw

伝わるでしょw

「何するかは教えてくれないのかな？かな？」

「質問ばっかだね。まあ、いーけど。病院いっただけ。ただ単にお見舞いいっただけ」

「誰の？」

「お前の質問には答ええないから、菜摘」

「あっそ」

「誰のですの？」

「昔の親友に、ちょっと挨拶を………ね」

「おい、刹那。お前それって。。。」

「あ？なーちゃんだね。うん、お前が傷つけた」

「違う、あれはお前だ」

「あそう。じゃあ、お前がいけば？」

「なんでそうn「お前がいけつつてんの。日本語通じない？」」

フハハハハハハ。

俺はとことん素直じゃない、素直じゃないの。

そして真キヤラとうzy……字……。

久しぶりに感じミスった。。。って？

あり？漢字だね、うん。

あっはっは……うんwww

「……渡し方他にもあるだろ！？」

「しらん、俺はしらん。紙の正しい渡し方なんて、しらないよ」

「……っ。分った。言ってくる」

「うん、言って来い、ちゃんと覚えよ」

「はいはい」

俺が会いに言っちゃいけない。

俺なんかが行っちゃいけない・・・。

さっきから漢字ミスおれだけかw

菜摘の言って来るは伝えてくるってことだし。。。。

まあ、ガンバレとだけ思っておくさ。

認めたくない・・・俺は認めたくない!!!! (後書き)

長いね。

長いね。

うん、分っています

会話文分っています。

はい、そして次回に続く・・・。

自覚はもうちょい先になりそうです・・・ (え

いまさら登場人物紹介。（前書き）

一応名前は全員でできたので紹介。

いまさら登場人物紹介。

刹那。

主人公。

馬鹿、駄目人間。

精神面が弱いせいか、昔の事を引きずっている。

菜摘

親友。

突っ込み担当っぽくてぼけ担当っぽい。

なーちゃんを傷つけた刹那をうらんでいるが、表に出さない。

はるか。

親友

相談に良く乗ってくれていた。

刹那の事を一番分っている。

・・・ノンケだけどね・・・あは。（え

なーちゃん（菜奈海）

親友。

入院中。

理由、自殺未遂。

設定っぽくて設定じゃないWWW

で、これからさきはネタバレ？みたいになるけど、別に読んでも問題はない。

なーちゃんが飛び降り自殺した理由。

刹那が突き放した。

んで、菜摘も突き放し。

はるか以外知らない宣言。

菜摘切れる。

なーちゃん泣く。

絶交宣言。

で、その後なーちゃんと菜摘はどちらからか分らんが告白。

付き合う。

でも、刹那が将来あぶないんじゃないかね？とかいってクラスメイトに言いまわす。

なーちゃん自殺。

未遂に終わる。

刹那は家族に「生まなきゃよかった、所詮お前はいらぬ。死んだほうがいい。友達がかわいそう」

それぞれ言われ。。。自殺しようとするが。

そのまえに友達との縁を切ると決意し、実行。

嫌われ者へと変わる。

はるかに告白。

ふられる。

笑顔でありがとう。

自殺。

止められる（はるかに）

けど、菜摘はもうきれていて。

はるか殺そうとして、刹那かばう。

死ぬ。

なぜかメンバーぜんいん転生。

修学旅行で死ぬ、

ひぐらしへ。

・・・。

めんどくs・・・げふんげふん。

ちなみにこのことを覚えているのは刹那だけ。

菜摘は刹那がなーちゃんの悪口を言ったと思っている。
が。

刹那は自分のしたことを覚えているため。

というか、思い出したため（菜摘転校してきたとき）
突き放すと誓う。

んで、今、あの時点。

あはっw

設定じゃないwww

とか、言わないでくださいw

充電がないなかでやってるのです！

時系列はこんどちゃんとupしますさっ！

ということでありがとうございました！

いまさら登場人物紹介。(後書き)

続きはまた明日うpします

どうせ俺は素直じゃねえよ（前書き）

すみませぬ・・・。

学校帰ってから疲れきってしまい、ずっとすぐに寝るって続けたら更新できなくて・・・。
これからは気をつけます・・・。

どうせ俺は素直じゃねえよ

「さあて、邪魔者が居なくなった所で、えーと、ま、今から話す事を、菜摘だけには言わないでくれる？」

「・・・なんでだ刹那？お前等小さい頃から一緒なんじゃ？」

「そうなんだけどさ、圭一。俺、最低な人間なんだとね、だから、菜摘に嫌われたくないからお願ひしてるわけ」

「言わない事は約束できる、けど。オジサンが刹那を嫌いにならないという保障はないよ？」

「嫌ってくれてかまわないよw」

「そんな無理やりな笑顔で言われても困るよ。刹那ちゃん・・・」

「いや、レナ。仕方ないってのwんじゃ、長くなるけど、聞いてくれw」

俺達は、えーと、俺、菜摘、なーちゃん、はるか4人はいつも一緒に遊んでた。

でね、遊ぶ前日に家族に呼び出されて俺はリビングに行ったんだよね。

まあ、その時の俺は、ニートつか、不登校だったんだよ。

その事でまた色々言われるんだろうなって思ってたんだ。

俺の家族って全員頭良くてさ、お前は家族に泥塗ってるとかいつも言われてて、なれたんだけどさ。

でも、その日は違って、俺に言った一言目が今までに言われたことがない言葉。

「お前、もういない」でさ・・・。

まあ、その後に友達がかわいそうだの死ねばいいだの。

流石に傷ついてさ。

でも、こいつらのために死ぬなんて嫌で。

けどさ、友達って言葉に俺敏感で。

俺、いらないうから突き放そうって決めて突き放したんだよね。なーちゃんがそれに泣いちゃってんで、菜摘はキレて。

でも、はるか「刹那が私を必要としなくても私が刹那を必要とするからそばにいる」って言うてくれて俺は、はるか以外いらぬ宣言をして。

で、何か菜摘がなーちゃんなぐさめたりしてるうちにどっちかが告って付き合ってさ。

まあ、それでもこっちに話しかけてくる二人がうざくてさ・・・。

まあ、悪い意味のうざいじゃないんだけどw

で、俺は二人が付き合ってることを、言いまわして将来やばいよなーと。

その言葉でなーちゃん自殺しようとして菜摘と一緒に落ちて、かばいあったのか、生きててさ。

で、今菜摘はそのことを覚えてない。

落ちた衝撃で覚えてない。

なーちゃんが俺を怖がっているのは俺がなにか言ったんだって思い込んでる。

「これが、俺の秘密、だな」

「・・・それって自分勝手、ですわよね？」

「知ってるって」

「言いすぎだろ、刹那」

「オジサンも圭ちゃんに同意だね」

「あー、OK。ありがと、普通の反応。てことで、俺、お前等との関係終わってOK？」

「俺、刹那の事分ってなかったんだな。お前自分勝手すぎるわ、菜摘がキレてもおかしくねえだろ」

「そう・・・ですわね」

「分ってるつつてんの聞こえませんか？んじゃ、これで」

・・・。。

惨劇だけは救ってみせる。

だから、俺の事なんて忘れてくれ。

菜摘とだけ仲良くしてくれ。

次の日、菜摘は梨花たちと一緒に住んだほうがいいとぼっちゃ・
つまり園崎家当主からの命令だ。

んで、俺は一人で暮らしてる。

ちなみに村八分にあってるから学校さぼったりw

でも、でも、それでも・・・。

レナは俺にご飯持ってきてくれる・・・不思議でしょうがないよ・
。。

だって、俺あんなことやってたのに、だよ？

レナが優しすぎて困る。

「刹那ちゃんは抱えこみすぎなんだと思うな。私は絶対刹那ちゃん
の味方でいるから、ね？つらいときは泣いて欲しいかな？かな？」

「・・・っ。俺・・・俺、菜摘が覚えてないこといいことに自分が
したこともみ消そうとして、でも、でも！菜摘の俺に向けてくれる
笑顔がっらい・・・俺・・・はあ、おれ、が・・・最低だってこと、く
らい分ってる、で、も・・・。あいつが隣にいないとつらいよ・・・
。つらい、んだ」

俺はレナに抱きとめられながら声を出さずに泣いた。

多分この時だったんだろう、俺がレナを好きになったのは・・・。

どうせ俺は素直じゃねえよ（後書き）

ああ、もう。

泣くところをうまく表現できない。。。
なくのは得意なのになw

決意。(前書き)

4 話くらいあげてみたい・・・。

決意。

菜摘は俺がやっと学校に来た理由を分ってるんだと思う。

レナの変化に菜摘も気づいてたっていうより、圭一たちが話してたところにいたんだろうな。

ま、嫌われ者の俺ですからねーw

でも、レナは殺人を犯しても俺のところへ毎日来てくれた・・・。
遠いのに、なんででしょうねw

「だあああああ！！！！！！！！ふざけんなあああ！何で俺の知らないところ物語進むかな！？ああ、何でレナが雛見沢症候群発症してるんだよ！！！！！！」

全「・・・」

「あ・・・縄跳び切れた・・・。と、いうことでレナ鎌をわけ、いますぐ床に・・・」

「刹那ちゃん、おかしくなったのかな？かな？圭一君、刹那ちゃん捕まえって」

「あ、ああ・・・」

「邪魔」

一言呟き圭一を蹴り飛ばす。

そしてレナに叫ぶ。

「俺、レナ信じてもいいんだよね？あのと時の言葉、信じてもいいんだよね？ねえ、レナ。俺にご飯持ってきてくれて嬉しかったよ。俺の相談つか、泣いても抱きとめてくれて嬉しかった。

でも、でもね、何で俺に相談してくれなかったの！？北条のおっさ

ん達殺す前に！俺に相談してくればよかったさ！レナが殺すより俺が殺したほうが良かったろ！？レナは仲間が居るんだ！つか、レナは、なんで最後まで仲間を信じれなかったんだよ。俺が言えることじゃねえ！んなこた分ってる！けど、けどさ！仲間を信じれなくなったら終わりなんだよ！俺は、はるかを信じてよかったと思ってる。でも！菜摘となーちゃんを信じれなかったことだけはあいつらが覚えなくても俺は悔やんでるんだよ！」

「・・・刹那ちゃんに言われても、レナわかんないかな？かなあ？」

「・・・」

刹那は一瞬だけ圭一を見て、沙都子を見る。

「・・・レナ、向こうで音がしたんだ！」

「聞き間違え・・・」

「確かに聞こえた！もしかしたら警察かもしれない！見てきていいか！？」

「・・・圭一君を信じるよ」

「俺は信じないのにねーwww」

笑いながら言う刹那。

そして、鎌の刃がないほうで殴り飛ばされる。

「みいーちゃんが裏切ったのは許せない。だから、死んでくれないかな？かな？」

「・・・っ」

「だあああ！」

レナが魅音に鎌を（刃がないほう）振り下ろす。
が、それは魅音に届かず刹那の腕に当たる。

「つてえええええ！おま、骨いったな・・・これ」

「・・・なんで庇うの？・・・それにしても圭一君おそいなあ・・・」

「レナ、まて！」

「刹那ちゃんは、みーちゃんの味方してればいいよ・・・」

「なっ・・・くっそっ！！！！！！」

「さあて、とりあえず、刹那。みんなの縄ほどいたぞ」

「さすがあ・・・つてえ。と、皆窓から逃げろ・・・つってもまだだめだ。レナが殺されるかな」

「どういうことですよ！？」

「外に射撃隊がいるからな・・・はあ、で。沙都子。分ったんだろ？爆弾の場所w」

「何でこんなところにいるのかなあ、圭一君」

「レナ！？」

「圭一さん！爆弾は屋根の上ですよ！」

「行かせないよ？」

「待ちなさい、鎌女。私が遊んであげる」

「いいのかなあ？梨花ちゃんは殺されちゃうよ？怒ったレナに殺されちゃうよ？」

「ごめ、梨花、お前は沙都子のそばにいろよ、俺が、レナ止めてやる」

「・・・刹那？貴方左腕が・・・！」

「は？何のこと？俺は転生してんだよ！これくらい直るっつのw」

「・・・なにを話してるのかな？かな？刹那ちゃんはやっぱり私の味方じゃないんだね・・・」

「今は、なw」

梨花が走り去るのを見届けてから俺は、レナの前に立つ。

「俺、ただ一言いいただけだから、言ってもいい？」

「早く、してくれないかな？かな？」

「・・・あー、えと。まあ、いいか。俺は、レナが好きだ。友達とかじゃなく、レナだから好きだ。以上。ってことで俺はお前を止めるため全力をだす！」

「・・・怒ったレナは誰にも止められないよ??？」

「それでも、だ」

「ガッ・・・。」

「レナは言ったよね？止められないって・・・。殺すのも容赦しないよ?って」

「くそ・・・。」

刹那の体に鎌が刺さる・・・。

いくら治癒が早くてもおいつかない速さでやられる・・・。

刹那は・・・すでに。

四肢が切断されていた。

なんで喋れるんだコイツ。

と作者は思う。

「それじゃあね、刹那ちゃん」

レナの振り下ろした鎌は刹那の首めがけて振り下ろされる。

・・・血が回りに飛び散り、刹那は、死んだ・・・。

「あはははははは！ごめんね！刹那ちゃん！レナ止まらなかったよ！」

「（・・・はんぱに治癒があると痛みが襲ってくる。四肢を切断されても俺は生きてる。それが原因で激しい痛みが伴う。けどな、レナ。俺だって本気を出せば、自分の命くらい復活できるんだよ！）」

「つ・・・ぐあ・・・あ、あああああああ！」

「刹那！」

「はあはあはあ。な、菜摘？俺、死にそうだ・・・な。う、あああああああ」

「やめろ！無理に回復させるな！痛覚までよみがえるんだぞ！？耐えられるわけがないだろ！」

「ぐあああああ！あああああ！・・・ああ、耐えられないかもしれない、な。でも、俺はレナに返事きいてねえんだよ！俺は、返事聞かずに死にたくない、もう、後悔だけはしたくない！」

「だけど、刹那！刹那ああああ！」

「ぐ、が。。。」

ありえない痛みに耐えながら回復をしていく刹那。

ゆっくりと、手足がくつついていく。

だが、くつつけるとき、一度死ぬと拒絶してしまうため、さらに痛みが走る。

それは、刹那の能力の引き換えだ。

自分の上から車が落ちてきてつぶされる痛み。

間接ごとに指を切られる痛み。

まだまだ拷問につかわれる殺人の痛みが刹那の全身を襲う・・・。

刹那には、耐えられる理由がある。

肉体に受ける痛みより刹那は心にくる痛みのほうが耐えない。
ただ、刹那の決意は、強かったからかもしれない・・・。

決意。(後書き)

グロい表現できねえええ！と叫んどきますw

トラックにゆっくり踏み潰される痛みとかその他もろろ刹那に襲い掛かります。

転生してはいけないから、だから、刹那は我慢するんです。

どんだけレナ好きなんだろw

主人公の見せ場がない回。(前書き)

主人公、乙ー！

明日朝から・・・というか今日の朝から部活なのに・・・。
でも、でも。

読者が居ることを信じて！

この話の次の話まで書きたいよ！

レナVS圭一の台詞はアニメ見ながらやってますw

主人公の見せ場がない回。

「・・・レナ。さあてええええええ！警察死ぬといいよおお！」

「刹那・・・おま、どんだけレナ好きなんだよw」

「っは？そんなのわかんないよw俺はただ俺の思ったとおりに行動するだけだ」

「がんばれw」

「ああ・・・」

「・・・っあ、レナ！」

「まさか、こんなところに隠したの、見つけるとわね。これで全て失敗かぁ」

「ゲームセットだな、レナ！」

「宇宙人と必死に戦ってたのに・・・。これで人類が滅んじゃったら圭一君のせいだからね・・・」

「はぁ！？宇宙人！？そんなのいまどき誰が信じるかってーのバカ」

「・・・っ」

「どうしても信じさせたいなら俺達部活メンバーには簡単な方法があるじゃねえかよ」

「勝った方が正義ってことだね？」

「そういうことさ」

作（僕の文才能力の都合によりバトル場面は飛ばさせていただきます）

んなっ！

「俺に負けたらそんな時は覚悟してもらうぜ！」

「私に勝ったらどうするっていうの!？」

「もちろん俺専属のメイドさんだよなあ。朝はおはようございますから、夜はおやすみなさいまでたっぷりご奉仕三昧だぜえ」

「あっはっは。圭一君らしいなあ」

「あのときさ、水鉄砲で一騎打ちしたとき、思わなかったか。もう一回、こんな戦いをしてみたいって」

「うんっ。思ってた」

「はは、この緊張感たまらねえぜ。決着がつくことすら興ざめするくらいになあ！」

「あっははは。負けても恨まないでね！」

「んじゃもう一回確認するぜ？俺が勝ったら俺専属のメイドになってご奉仕三昧の毎日だ。人前ではこれが私のご主人様ですってちゃんと紹介するんだぞ！」

「可愛い服じゃないと嫌だよ」

「そこは任せろ！監督の完全監修の下色々と取り揃えてやるぜ!!」
「すごいすごいW負ける気なんてさらさらないけどなんだか楽しそう！」

「次はレナが買った番だ」

「えっ？」

「レナが勝ったら俺はレナの話を信じる。世界は宇宙人に支配されてるって話を信じてやる。お前が喉をかきむしって死んでも最後はちゃんとみとってやるから安心しろ」

「なんだか、私を買ってもつままないね」

「なんだよ、かえるのかあ？」

「私も圭一君と同じご褒美がいいなあ」

「俺がメイドかよ!？」

「別にメイドじゃなくていいよ。でも、ほかは同じ」

「っ？」

「朝は私におはようって言って夜は私におやすみって言って欲しい。いっぱい私に優しくしていっぱい私を楽しくさせて欲しい……。あれ？これじゃあ、私が勝っても圭一君が勝っても私達ずっと一緒なんだね」

「一緒ではあるが待遇に違いがある」

「あっはは」

「先に言っとく」

「なに？」

「楽しかったぜ！」

「私も、だよ」

「っち、やるな」

「もう決着ついたんだよね」

「まだついてねえ。そいつを振り下ろすまではまだつかないぜ」

「……だよ」

「ん？」

「嫌だよ、嫌だ！どうしてこんなことになっちゃったんだろう、何処で変になっちゃったんだろう……。私はっ、皆を信じてたはずなのにどこで信じれなくなっちゃったんだろう。どうしてっ、大好きな仲間達にこんな恐ろしいことを」

「なっ、お前気づいたのか！？気づけたのかよ！」

「どうして私はあんなにも楽しかった日々を自分で壊してしまったんだろう」

「お前、やっぱりすげえよ」

「へ？」

「自分自身の間違いに気づけたんだよ！さすがだ、さすがだよ！レナ！」

「仲間を傷つけたよ？みいちゃんに酷いことしたよ、それに刹那ちゃんを……」

「後で謝っつけ。俺的には当分の間、姉妹の入れ替わりを見抜けて丁度いい傷跡だと思ってるぞ」

「簡単な事だったんだ……。誰でも簡単に思いつくとても簡単な事をすればよかったんだ！」

「え？」

「何かやばかったり、疑いそうになったり、辛いことがあったときはなあ、仲間に、仲間に相談するんだよ！」

「そう……。だよね、そうだよね！」

「させないから……」

主人公の見せ場がない回。(後書き)

主人公、最後の台詞言ってるってわかんないいいいい W W W
説明しますと、

うとうとしていた警察官のところへ言って、殴ってます、はい。
ちなみに罪滅ぼし編は次回でおわりです W

きりがいいところで終わらせたかったけど、長くなるから切った最終回。(前妻

長い、サブタイトルがW
W
今回で終了ですW

きりがいいところで終わらせたかったけど、長くなるから切った最終回。

「刹那・・・ちゃん？」

「たつくさあ、俺、死んでないよWまだ・・・」

「でも！」

「レナ。何もしてないんだ、レナは」

「おい！刹那！早く病院に・・・っ！」

「いい・・・。死ぬことはかわらない。撃たれたところ痛くないしW」

「でも、でも！」

「ああああ、もう。俺フラれたね！な、菜摘！」

「刹那、残念だったなW」

「はるかにもフラれて今度またフラれちゃったよおお！」

「え、えええと？」

「何の話ですか？」

「みい？」

「ふう・・・。レナ素直になっていいと思う。確かにレナの犯した罪は重い、でも、それをこの仲間達は気にしない、だから、素直になればいいと思う・・・か、ら」

「刹那！」

ああああ、もう。

はんぱな力。

確かに俺が抵抗されて撃たれた傷の影響もあるけど。。。

俺の治療能力・・・時間を巻き戻してるだけ。

でも、いつまでも戻してられない。

バラバラにならないけど、俺は一度死んでる。

だから、ただ、死ぬだけだ。

でも、今死んじゃったら次の世界これないかも・・・W

「菜摘、チヨイチヨイ」

「何？」

「――――」

「ハァ!？」

「て、ことで。頼んだから、じゃあ、また、な……」

「刹那？刹那！？てめえ！自分でなんとかしろよ！俺は、しらねえぞ……なあ、刹那、もう、勝手に死ぬのだけは、やめてくれ……」

いつもの部活風景。

でも、あいつが、刹那がいない。

刹那が死んだ後、そこにいたはずの刹那が消えて、みんなの記憶からも消えていた。

ただ、ただ、一人だけ、梨花が覚えていた。

俺が刹那に最後に言われた言葉……。

「俺の家にレナが来た時首に傷はなかった。隠してもなかったしな。で、思ったんだけど、多分、俺達が来たことで世界が狂い始めてる。俺達は狂うはずがなかった、なかったはずだ。だけど、もう、分らない。次に狂うのは俺か、お前か、それとも部活メンバーか。だから、菜摘。俺は次の世界はこれるか分らない。そこで、頼みたい。絶対に守ってくれ、皆を、守ってくれ」

あいつがまともな事言ったのはこれで3回目。

一回目は、俺達が誘拐されたとき、俺等を庇って。

でも、逃げれなくて結局みんな転生して。

二回目は、バスの事故で、あいつは俺と、はるかとななみを庇って

一番最初に死んだ。

ななみは歌わずに俺の隣に居た。

よく、3人も庇えたな・・・。

でも、二回とも俺達にありがとうとか、守ってあげてとか。

自分の事なんてどうでもいいんだ。

刹那は、俺達の事しか考えてない・・・。

次回

主人公が入れ替わってしまったよ！
を

お楽しみに（え

きりがいいところで終わらせたかったけど、長くなるから切った最終回。

（後妻

あとがきに予告かけて？

いや、菜摘がどうしても言いたいって！

刹那⇒僕。菜摘⇒親友。

なんですけど。

実際、力関係菜摘の方が上なんですよw

ドSすぎるんですよw

僕、Mじゃないのにいじめやがって・・・。

Sをいじめるってなにさああああ！

・・・。

いたっ！

物を投げないで下さい！

関係ない話したからって物をなげないでええええ！

主人公が入れ替わ（ry）え（前書き）

ささささ。

崎原菜摘さんのverだぜw

ちなみに、菜摘さんはノンケでしたっ！

過去形w

でも、ここでハーレムは作ろうとか、

彼女作ったりしませんよw

お気に入り登録2ケタありますがとうございます！

でも、感想がこないなww（あたりまえだ（駄文だもんね（（（

主人公が入れ替わ（ry）（え

あの野郎・・・主人公ぐらいまじめにやれよ・・・。

俺「ひぐらしのなく頃に」なんて見たことないんだよな・・・。

刹那が力説してたのは覚えてるんだけど・・・課題の邪魔だったから殴って気絶させたからな・・・。

そもそも、話なんて聞いてなかったし。

んー、覚えてるのは、惨劇が続いてること、終わらせるには黒幕を見つけて、古手梨花を殺させないことだっけ？

うろ覚えだから間違ってるか・・・？

作（さっすがあ、菜摘さん、刹那とは違って核心はあってるぜ！）

さて、馬鹿は置いといて・・・。

惨劇回避できなかったからここにいるんだよな？

一話にもっとどってねえか？？

ま、いいか。

ふう・・・。

「崎原さん、どうぞ」

適当に終わらせて、干渉しないところ。

刹那が主人公なんだし、俺が解決しちゃ見せ場ないだろ・・・っと。

「崎原菜摘です。えー、この村のことも、近辺の町のことも全くわからないので、迷惑をかけるとは思いますがよろしくお願いします」

トラップって俺にはないよな。

まあ、よけるんだけどさ・・・。

作（反射神経でちゃっかりよけてらっしゃる菜摘さん）

「沙都子のトラップよけてるぞ！」

「は？・・・あ、あったのか、気付かなかった」

「・・・」

「か、かあいよいよおお！泣いてる沙都子ちゃ・・・」「ごめん」

「え？」

「なんか、ごめん。俺こういうこと刹那って友達にやられてて避けれるっぽくてさ・・・ごめんな？」

「べ、別に泣いてませんわよ！」

あの後結局俺と沙都子、梨花は家が近いおかげで一緒に帰ることになった。

刹那・・・頼む、これどうにかしてくれ・・・。

作（解説）。両手に花状態だよw）

「あなたが、崎原菜摘さん？」

「え？」

作（一話だっけ？同様とばすー！）

「腕が見つかってない？どういうこと？二人とも・・・」

「みい」

「・・・」

「黙ってたりしたらわかんねえんだk」「うらああああ！」刹那っ！
？」

「泣かすなよ、美少女を！」

「ロリコン・・・」

「ひでえ。ま、否定はしねえけど、で、菜摘さん、この二人が話してることは事実だ、だけど。それがお前の手を握っている二人を疑う理由にはならないぞ・・・？」

すっげえ、怒ってる、刹那。

殺気丸出し・・・。

てか・・・さ。

「来るのおせえよ刹那」

「こっちにもいろいろ事情があるんだよ」

「刹那・・・さ・・・ん？」

は？なんで二人が刹那睨んでるんだ？

「はっはっはっは。ごめ、俺村八分状態なのよーwでことで、菜摘、はるかが来たときはお前に任せる！んじゃ！」

「ちょ！刹那！？」

考え事をしていたせいか、俺たちは家についていた・・・。
と・・・ご飯どうしようか？

「菜摘さん、ご飯うちで食べませんか？」

「え？いいのか？」

「みいゝ大歓迎なのです」

「じゃあ、お言葉に甘えてw」

主人公が入れ替わ（r y）え（後書き）

.....。

さ、さあ W

は、始まった。

刹那？え？

村八分？なにしたんだお前——！

回想シーン part 2 (ん? (前書き))

刹那は菜摘が来る前から雛見沢にいますよw

回想シーン part 2（ん？）

「で、また俺いけるんだよね？？？」

「いけるけど、え？」

「早く、頼む」

「いいのか！？お前は村八分になる決定なんだぞ！？」

「いい」

「わ、わかった・・・」

俺は雛見沢村に來たのは、沙都子たちが村八分になってしまふ・・・
北条さんがケンカ売る前日。

いとこって事で中野家に引き取られた形で転生。

でも、その引き取ってくれた人たちは北条さんをそそのかしてケン
カを売ったってなってさ。

そんな原因と仲良くしたくないわけでしょ？

沙都子だってさ・・・。

だから、俺は沙都子と梨花に嫌われてる。

梨花は前の世界を覚えてくれていない。

だから俺は自分のすることをする。

「頼むよ刹那」

「悟史がいなくなったら沙都子はどうするんだよ！」

「僕がそばにいられなくなったときでいいから・・・」

「悟史！駄目だってば！俺じゃ、俺じゃ、沙都子を守れないよ・・・俺が近くにいたら沙都子の風当たりはひどくなる」

「影からでもいいから、頼むよ」

「悟史・・・間違わないでくれよ・・・。お前のすべきことは、人を、殺すことじゃないから・・・な？」

「・・・刹那、ごめん」

「わかった・・・分かった。沙都子は俺がなんとかして守るよ」
「ごめんね」

沙都子が俺たちのこの会話を聞こえない位置から見ていたのは知っていた。

それを、沙都子は梨花たちに「にーにがいなくなったのは刹那さんがにーに何か言ったからですわ！」と言ったらしくて。

俺学校いけなくなっちゃってね・・・。

だから家で畑できるところはあったから。

敷地広いしさw

それで、自給自足して、興宮まで行って新聞配達して、コンビニで働いて、電気代とかそこらへん稼いでるんだよなーw

小学生なのに、俺orz（結局お前はいつでもorz状態になるんだな

なんか、冷たいことを作者に言われた気がする・・・。

まあ、いいか。

沙都子を守るって約束したけど、確かに。

でも、ねw

レナ達を守ってあげてるから、安心して眠っててくれよ悟史。

俺は、今はもうレナが好きっていう感情はない。
理由。

転生には誰かを好きという気持ちをなくさせること
が条件なんだよなw

たつくねえ？w
w

まあ、この世界の俺は、全面的に菜摘をフォローする。

回想シーン part 2 (ん? (後書き)

この世界の刹那はまじめ人間っぽくて、馬鹿っぽいロリコンです (え
作者がロリコン検定したら120%になっちゃいましたよ W W W W

W W W

2次元目線で答えたら W W W W W W W W W W W W W W W W W W W

W W

というか・・・。

ロリコンだからって見捨てないでくださいねー！ー！ー！ー！ ((

俺はあいつのためなら死ねるさb（前書き）

・・・。

P C 禁止ってなんで毎回くるんでしょうね。

なんか・・・もう。

すいません；；；

俺はあいつのためなら死ねるさb

菜摘が住んでいる家は、前回俺の住んでたところ。

じゃあ、俺はどこに住んでいるかって？

そこから走って30秒後のところbb

近いでしょうb近いでしょうbb

・・・疲れるな。

畑仕事・・・自給自足やばすぎる。

体力もたないか・・・ね。

「はああああ。もう夜か・・・でもな、ご飯俺たいてないからなあ。んー今日も夜ごはん抜きでいいか。仕方ない仕方ない」

「何が仕方ねえんだよ」

「・・・菜摘がなんで俺の目の前に立っている!？」

「お前もご飯来いって二人が、んで呼びに来た」

「・・・本気か？」

「本気」

そうか・・・。

うなずいたものの、着替えなないといけないんですけど。

・・・着替えてこようかなって。

「じゃあ、着替えて・・・くるからまってr「そのままでもいいだら、着替えもって来い。風呂俺のところで入れ」・・・了解です」

目のはんぱなく怖かった。

殺気がバンバンこっちにきてた。

な、なんでこんなことになってるだ!？

「……………」

「で、とりあえず、なんで刹那は村八分なんだ？」

「それは俺が聞きたいな。けど、仕方ないんだよ。運命を変えることはできない、変える事の出来る力を持った人が全員変えようというのと、悪夢は終わらないんだよ」

「それは、まあ、いいんだけど。俺が聞きたいのは、なんでこの村はそんな事をしているか、だ」

「んー。あれだ、裏切り者と裏切り者を作った親の子供、当たり前だろ。そもそもこの村をダムで鎮めようとするのがおかしいんだよな。ただでさえ自然がすごいのに、なにやっぺんだろうな、日本の政府は。こんなだから失ってから気付いてあわてるんだよ、なあ、菜摘？」

「いや、その時代の話されても、な」

「あ。ごめんごめん」

えっとお、二人とも会話に入っていたきたいなあ。

とか思ってみるb

「・・・菜摘さんたちは仲がよろしいんですね」

「当たり前だ、刹那と俺は幼稚園から今までの幼馴染なんだから、さ」

「小6の時は本当に感謝です。助かりましたbb」

「中1のときお前全然学校こなかったよなwww」

「え・・・小学生から刹那はここにいたですよ？」

「んー、色々俺たちにはあるんだよ、な刹那」

「そうだな、何回死んだらいいんだい、とか聞いてみても答えはないよなww」

「当たり前だろw」

||||||||||||||||||||

あの後少しぎこちなかったけど二人とも俺と話してくれて。

最後には結構仲良く？なれたかな・・・w

なぜか菜摘の家に泊まることになって明日学校行くことになったやつたけど・・・。

畑・・・まあ、俺の作ったものなんかとらないかww

さわりたくもないだろうなww

っと・・・そろそろ眠いし、寝ようかな・・・。

それにしても、二人のご飯上手かった・・・な。

俺はあいつのためなら死ねるさb（後書き）

もう、作者タヒンでます。

やばいです。

親との喧嘩がありえないです。

もう、いやです↑

前回のサブタイトルが意味わからない件についてb

「刹那起きろ、ご飯。んで学校いくぞ」

「・・・は。え、いやだ、絶対やだ」

「俺が守ってやるから、怖がるなよ。絶対あのときみたいなことはさせない、トラウマになってることくらい知ってる」

「けど、そんなことしたらお前が！」

「あんな、俺は刹那、お前は俺の親友なんだよ。だから刹那のためなら死ぬる。何にだって堪える。あの時、お前が俺達をかばってくれた時みたいに」

「おま、気付いて・・・怖いな、ほんと」

「俺に隠し事できると思ってんじゃねえって。お前はほんと、嫌われ者に回るの得意だよな。けどな、それで確かに俺たちは救われた。でも、お前も救われれないといやなんだよ、わかる？」

「・・・逆に考えてみるといやだから、わかるよ」

「じゃあ、いこう？ なっ？」

俺は菜摘のこういうところが好きなんだろうな。

だから、俺は菜摘から離れたくないし嫌われたくない。

なんで突き放しても離れていこうとしても皆は俺を離さないとか言っちゃってくれんだよw

納得できる理由を言うまで離さない、刹那が私を納得させれるとは思はないけど。

か、だから俺ははるか好きになったのかな・・・。

フラれても、ふっても、態度は変わらない俺たち。

本当の親友ってこういうことか？

それとも俺が本気ではるか好きじゃないって事・・・？

そもそも恋愛と友情の違いってなんだ？

俺は友達を守りたい。絶対に守りたいって思ってる。

人は誰かを守りたいって思うのは好きだって言う人もいる。
よくわからないなw

「おい、刹那ー、お前きらいなものとかないよな?？」

「んー? 一応ないさあw」

「よし、じゃあだべていこうか」

「あいあい」

それからしばらく話しながらご飯食べて。

え? どんな内容だった?

なーちゃんとかはるかの話とか。

野球またやりたいなあ、とかそんな話w

ちなみに菜摘が投手で俺が捕手やってたよw

クラスの女子とか誘って趣味でやってたなw

大会で残るのが残念だったw

あのチームならいけたw

絶対優勝いけたww

「おはよう、菜摘・・・って中野?」

「・・・おはよう魅音」

「おはよお・・・じゃ俺は席つくから」

「ヘタレか・・・相変わらず」

「・・・誰がヘタレだよ、誰が!」

「お前以外にだれがいるんだ?」

「はああああ!？俺のどこがヘタレなんだよ!意味わかんない!は
?なんで皆ヘタレ扱いするんだよ!」

「ヘタレだからだろ」

皆の視線なんか気にならない。

菜摘との会話だけは楽しめるんだ。

本当に、怖がらずに楽しめる。

気、つかわせてるんだろうけど、ありがとう。ほんとにW
ったく。

菜摘のおかげで昨日から涙腺緩みっぱなし。

くそお、ひぐらし解決できるか不安だW

前回のサブタイトルが意味わからない件についてb（後書き）

次の更新はいつになるか不明です。

そして今回は誰の話かまだ決めてないWWW

駄目作者ですいませんW

やはり新の主人公は菜摘sなんですね、わかりますb（前書き）

うあああああ！

ニコ生オール凸してたら更新できなかった・・・ぐはっ。
すいません。

はあああああああああああああああ。

ま、まあ、読んでやってくだせえ！

そのうち記念っぽい話でも作ろうかなw

やはり新の主人公は菜摘sなんですね、わかりますb

「だああああああ！だ、れ、が、ヘタレだ！誰が！！」

「・・・はるかに聞いたら自分からヘタレって言ったっていったぞ？」

「えっと、それは○ト○ンのエ○ラが好きだったからヘタレになりたいっていったらはお前はすでにヘタレだと言ってきたんだよ！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・はるかなイスっ！」

「お、ま、え、なあああああ！！！！いい加減にしろ！もう！なんだ！はあ！？全く人は村八分状態なのによくそんなことを・・・はあ・・・」

「うん、それなんだけどさ」

そこで俺は言葉を区切る。

昨日寝る寸前に考えた。

もし、この中で刹那を省くって言うやつがいたら俺がそいつを許さない。

絶対、ゆるさねえ・・・。

「皆に提案。これからまだ刹那を村八分として扱うのか？俺は刹那が悟史ってやつを殺したとかどこかにやったとは思えないな。そもそもこいつはヘタレなんだからなことでできるか。つーかダム建設に賛成したのはこいつを拾ったやつであって、こいつじゃねえだろ。もし、刹那をそんな扱いにするなら俺はこの村全部敵にしてもいい。それに、この村そもそもおかしいんだよ」

「何がおかしいっていうんですの？」

「それは刹那が説明するんじゃないの？」

「は・・・俺！？・・・・・・・・えっと、悟史は生きてるよ。でも、その場所言ったって俺達にはなにもできない。雛見沢症候群とかんなの俺の目にはうつってねえけど、でも、このまま村がこんな状態じゃ、後で、死んでから後悔する……。ま、こんなざれごと聞き流してもOKOK」

結局、今回くるうのは刹那にはどうせわかってるんだろうなw俺は別に誰が狂おうがしたこっちゃない。

けど、それじゃ前の世界で苦しんで死んだ刹那の意味がない。だから、だから俺は刹那のために頑張るんだ。ただ、それだけだ。

はあ、なんか喧嘩沙汰とかあったらどーしよ、めんどくさいな。

「じゃあ、それだけ、俺帰る」

「は？なんで？」

「ちよつと仕事・・・いや、親がいないのでね、まあ小学生から働いてるし慣れてるよb」

「あっそ」

「そーですよbんじゃあな」

刹那が帰る・・・。

新聞配達じゃない、辞めさせた。

じゃあ、やっぱりあいつは

狂う人がわかってるんだ。

それとも誰かを助けたいから動いているのか・・・俺にはわかんないな・・・・・・・・。

くそっ！

俺、またあいつが無茶するの止められないのか・・・？

これじゃ親友なんていつてられねえよ・・・。

なあ、刹那・・・お前一体何をしようとしてるんだよ。

どのみち最後助かるのになんでお前はそんなに頑張るんだよ！

やっぱり、苦しみを持ちながら死なせたくないとかそういうこと考えてるのか・・・？

なあ、俺、お前が考えてることわからないし、わかったとしても理解できないと思う。

なんで、お前は、はるかだけを守らない？

普通好きだったやつを守るんじゃないのか？

前の世界でレナを好きになるとかおかしいだろ・・・？

刹那はあれでも一途だから絶対はるか好きだと思ってたのに。

・・・転生するのに何かを犠牲にしている・・・？

まさか、な、そんなわけないよな。

あつたら言ってくれるはずだ・・・。

頼むから、刹那俺を頼ってくれよ……………。

やはり新の主人公は菜摘sなんですね、わかりますb（後書き）

次回の予定なんざたててねえぜ！

と調子に乗っちゃう作者。

ま、刹那さんの行動に期待しましょう・・・え？できませんって？
わかってますb

菜摘さんの行動に期待しときましょう！！b b

刹那「ええええええつええええええ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7777l/>

百合・・・なにそれおいしいの？

2010年10月29日13時17分発行